

日本ハリストス正教会教団・西日本主教教区報

西日本正教

No.150

Summer, 2021

西日本主教教区宗務局

604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

京都ハリストス正教会内

Email: OCJWDioocese@gmail.com

電話・FAX (075)231-2453

郵便振替 01030-5-18547



聖アポリナーレ・イン・クラッセ聖堂(イタリア・ラヴェンナ)

西日本主教教区 教区会議

六月二四日



六月二四日（木）西日本主教教区「教区会議」が京都正教会、生神女福音聖堂、西日本教区センターを会場に開催された。

教役者会議

教区会議に先駆けて同日午前教役者会議、正午会計監査が行われた。

教役者会議では、過年度の反省と報告。二一年新年度の教区活動計画案、各教会の活動計画案、情報交換もあつた。

今回は、コロナウイルス禍の中、六月一日に会計資料や活動報告等を各教会代議員へ発送した。昨年同様、事前に資料内容の把握、返信ハガキに承認「可」か否認「否」に〇印を記入、欠席者には委任状をお願いする会議形式を採用した。すでにインターネットを活用したウェブ、Zoom会議が数回開催され、また教区メールにおいて情報交換、意思の疎通を踏ってきた。

ダニイル府主教座下の祝福のもと教役者会議では、これらすべてを原案どおり本会議にかける事を決議、承認。全国公会代議員と会計監査も承認された。

会計監査

同日一二時教区会計の監査、アルセニイ三井治郎兄とペトル山岡照明兄が、帳簿、通帳、繰越金などのほか決算書と予算案にも誤りのないことを確認した。

教区会議

同日一三時教区会議。出席者一三人、ほかは欠席委任状となった。ダニイル府主教座下は、リモートでのご出席となり、ディスプレイ画像から祝福、

ご訓示をお話しされた。副議長…グリゴリイ水野宏師、書記…ソロモン川島大伝教者、議事録署名人…グリゴリイ伊藤慶郎師・パウエル小池慎一兄。

訓示後、水野師の司会進行で、過年度と新年度の業務報告・計画…松島教務部長、財務諮問委員会…松島師、諸規則委員会…杉村師、宣教企画委員会…伊藤師、決算報告（教区センター舎）…サムイル尾又慎一教区財務部長、監査報告…三井兄と山岡兄、予算案説明・承認、教区分担金、コロナウイルス禍による教団から交付される災害交付金の各教会への配分案の説明等が全会一致で承認された。

宣教活動はコロナウイルス禍を鑑みながらとなり、一年間休止。西日本正教年二回発行のみは確定している。冬季セミナーについては企画案を検討中。

先に提案されていた主教会議への「請願書」案、ニコライ小野修道司祭の日本正教会への正式な移籍・受け入れ、豊橋正教会への派遣について、全会一致で採択された。教区会議後、直ちに主教会議宛、請願書が送付された。

最後に七月全国公会代議員が選任され、一五時会議終了、ホールと聖堂で記念写真を撮影した。ホールでの記念写真では、ダニイル座下がディスプレイ画像を通しての記念撮影となった。

コロナウイルス禍の影響でこのような形式での教区会議となりましたこと、お詫び申し上げます。また開催成立にご尽力くださった各教会の皆様、会場の京都正教会の皆様にご心より深く感謝申し上げます。

（及川記）

全国公会

開催

七月一〇日～一一日



七月九日(金)総局会議

午後三時の小会議(主教品と三宗務局長)のあと、五時～総局会議が、東京復活大聖堂、ニコライ会館において開催された。西日本教区からは松島雄一財務諮問委員長(大阪)、伊藤慶郎宣教企画委員長(名古屋)、満田稔総局役員(豊橋)と及川局長が出席。公会前の準備はじめ教団の活動について協議された。

七月一〇日(土)第一日

東京ニコライ会館において、一三時半開会祈禱、ダニイル府主教座下の開会宣言により二一年度全国公会を開始。議長ダニイル座下のご指名により、副議長・書記・議事録署名人・議事運営委員等が選任された。そのあと副議長の司会のもと、ダニイル座下の訓示、小池総局長による教団活動報告、財務諮問委(松島師)、全国宣教企画委(伊藤師)、諸規則検討委(榊田尚師、山手)の報告等議事が順調に進行。夕方六時から東京復活大聖堂にて晩禱が執り行われた。

七月一一日(日)第二日

午前中、ダニイル府主教座下、セラフイム大主教座下、三局長ら司祭の陪禱する主日聖体礼儀。聖使徒ペトル・パウエル祭を併祭、説教、田中仁一神父様、領聖後、教役者記憶リテイヤが執行された。

特記事項としては、大阪正教会の輔祭松田光剛師が聖体礼儀、小聖入の時「長輔祭」に昇叙された。西日本主教区としてまことに喜ばしい慶事である、

幾歳も！

昼食後、公会第二日目日程案に沿って議事再開、過年度決算報告(小島財務部長)・監査報告、予算案上程が行われ、いずれも全会一致で承認。会計監査の選任などの議事のあと、セラフイム座下の閉会の言葉、閉会祈禱と記念写真をもって公会を終えた。

コロナウイルス特別交付金

第二日小島財務部長から提案があり、本年度は全国教会へ総額三千万円の交付が承認された。西日本教区へは五六七万九六〇〇円支給予定、教団財務の準備のでき次第各教区へ給付、各教会への配分方法などは各教区に一任される。この交付金は、聖堂での祈禱が減少するなど、献金収入減少の教会・信徒をケアするためのもので、昨年度に続き二回目となる。

自給神品服務規定

教団より八月以降、配布予定。自給神品とは、生活の保障となる主たる収入を教団以外から得ている司祭・輔祭を指す。聖職者年金、聖職者遺族年金につき、教団によるケアを充実させるため、協議と整備が進められている。自給司祭には教団から一定の俸給、自給輔祭には教会あるいは教区から手当や交通費等の支給が明示された。

遠く西日本から出席された皆様、猛暑の中ありがとうございました。

教団人事

☆横浜正教会

管轄 主任司祭 デイミトリイ 田中 仁一 師

(小田原 兼任)

副司祭 ガヴリイル 田中 和幸 師

(東京 兼任)

☆幾歳も！

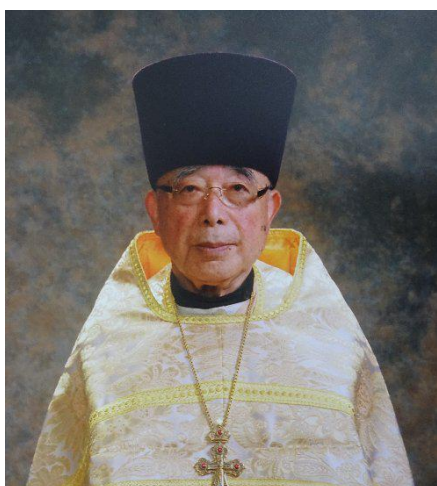
昇叙 長輔祭 ニコライ 松田 光剛 師

(大阪教会)



(及川記)

永遠の記憶 長司祭ワシリイ加藤師逝く



六月二五日(金)午後六時、休職しておられた神僕長司祭ワシリイ加藤國枝神父(宮城県仙台正教会)が、病気で永眠されました。八八歳でした。セラフイム大主教座下の司祭、マルコ小池師ら司祭三人の陪祭、二九日通夜パニヒダ、三〇日司祭埋葬式が、仙台教会において執り行われました。参拝者は約四〇人。ご遺族の御意向としてコロナ禍を考慮し近親者のみでした。西日本主教区から弔電を送りました。こころより永遠の安息をお祈りします。

新刊書ののご案内

カリストス・ウェア著 ゲオルギイ松島雄一訳

『正教の道』新教出版社 二三〇〇円(税別)

本書は一九七九年(一九九五年改訂)の出版以来、西方キリスト教世界でも広く読み継がれてきた著者の代表作です。

正教の基本的な教えと生き方を「教理書」やキリスト教倫理・道徳として教えを垂れる「説教集」の体裁ではなく、至聖三者の神への私たちの憧憬、渴仰、希望、愛に寄り添いながら、神への道を、時に詩情豊かに、時にユーモアをまじえつつ、温かい眼差しをそそぎながらいつしよに歩んでくれる本です。一部を紹介します。

「私が誰かを愛しまた憎むなら、…その愛や憎しみの対象である彼や彼女を、愛されるべきもの、憎まれるべきものへ実際に変えている。…愛は創造的に働く。そして憎しみは破壊的に。この私の愛に関してその通りなら、ハリストスの愛の場合は、比較にならないほど強固な真実でもある。…主の十字架以上の受難する愛の勝利は、…模範ではない。それ以上のものである。主の受難する愛は私の上に創造的に働く」。

「ハリストス主は、主なしには全く不可能であった何かを私たちのために成し遂げた。同時に、ハリストスは『私たちの代わり』に受難したと言わなければならない、むしろ『私たちのために』受難したと言わなければならない。神の子は『死に至るまで』受難した。それは、私たちが人が受難を免除されるためではなく、人の受難が主の受難と同じものになるためだった。ハリストスは人に受難を回避する道でなく、受難を通して行く道を差し出した。主は…人の真の救いのために受難を共にしてくれる」。

あなたは棺(ひつぎ)に

何を入れますか

長司祭 パウエル 及川 信

聖使徒ペトル・パウエル の致命(ちめい)の神の国への凱旋

七月一二日は聖使徒ペトル・パウエル祭。いまから約二千年の昔、ローマ皇帝ネロの治世、西暦六〇年から六五年の間といわれていますが、同じ日に偉大な使徒ふたりがローマで永眠しました。

聖使徒ペトルは十字架にかけられ、聖使徒パウエルは首を切り落とされる斬首刑でした。聖使徒ペトルは、恩主イイスと同じ形式の十字架刑をうけることを拒否し、自ら逆さ十字架を望んだとも伝えられています。

ふたりの遺体は、ローマ郊外の戦士の谷という所に放置されたそうです。無名戦士の墓といえれば聞こえはいいのですが、実際は、住所不定無職の浮浪者、身元引受人のいない戦死者、病死者などをすてる場所だったといえます。

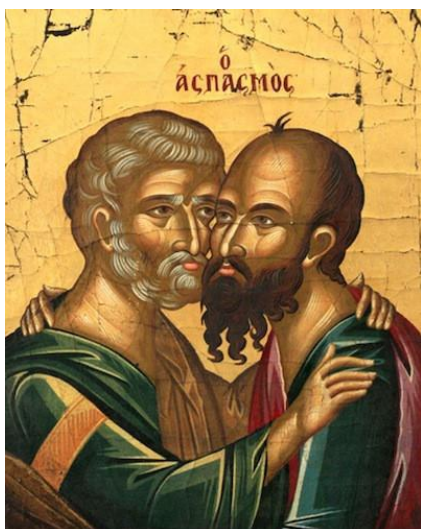
ふたりの聖人の死は、後世に美化されるような格好のいいものではなく、ふたりの恩師、救い主イイスの受難と十字架の死と同じくむごいもので、その永眠は信徒らの涙と悲しみに包まれていました。

聖なる伝承によると、天使らがバラとゆりの花を携えて、ふたりの聖人の神の国への凱旋を出迎え、

ペトルとパウエルは栄冠をいただき、白い輝く衣服を身にまとい、光に包まれて、イイスと生神女マリアの前に向かったと伝えられています。

もちろんこうした描写は、聖人伝の掉尾を飾る典型的なものです。聖人はそうして天国へ凱旋する、だから聖人として列聖されたのだ、あたりまえの美しい話ではないか、という人もいるでしょう。しかしそういう表面的な理解のままではよいのでしょうか。

聖ペトルと聖パウエル



あなたは棺に何を入れますか

あなたは永眠された人に何を贈りますか。あなたは棺に何を入れますか。天使らは聖使徒ペトル・パウエルにバラとゆりの花をたむけました。わたしたちは亡くなった人に、何をたむけるのでしょうか。

多くの場合、埋葬式やパニヒダは、永眠者のためだけの祈り、死者への鎮魂歌だと思われています。ですから棺には、故人の愛用した日用品、衣服、ア

クセサリー、人形、愛読した本、パイプや杖などをいれます。

ただそうしたときわたしは、神父として、故人の愛用した胸かけ十字架や聖書、聖像(イコン)は棺に入れて燃やさないで欲しいと、遺族の方々にお願ひしています。

その信仰をだれかに受け継いで欲しいと願っているからです。

おおよそ、永眠者、死者は、すでに神の手にゆだねられ、神の懐に抱きとめられていることでしょう。

祈禱文で祈るとおり、

「病いも悲しみも嘆きもない、穏やかなる港に着いて」

安らいでいることでしょう。

そうであるならば、なぜ永眠者記憶の祈りがあるのでしょうか。

なぜ生きているわたしたちが、永眠者、死者のために祈らねばならないのでしょうか。

わたしは思います。生きのこっている、わたしたちにこそ、埋葬式やパニヒダ、墓地での祈りが必要なのだ。

あなたは神に何を祈りますか。永眠者の天国での生活ですか。その人が地獄に堕ちないようにですか。あるいは永眠者がこの世にやりのこしたことがあれば、自分が成り代わってやってあげるから、と祈りますか。それとももつと生前、永眠者、あなたに尽くしてあげれば良かった、と慚愧の念で祈るのでしょうか。

わたしたちは、その人の埋葬式やパニヒダに参加するとき、その人の生の一部にかかわります。神の

与えたもうた、生命の重み、人生すなわち神の時に
もかかります。

それでは、その人の生の一部、生命の重み、神の
時にかかわる者は、何を祈るのでしようか。

あなたが埋葬式やパニヒダなどのとき、悲しみと
嘆きに満ち、涙をもって祈りの場に来るのは、そう
しなければその場に合わないからという、単純な理
由ばかりではありません。

生神女就寝



生命の尊厳、生きる希望とは

人は生と死の現場に来たとき、はじめて人間の生
命の尊厳にふれます。生命と人生の重さを自覚し、
その人の生の意味を知りたいと願います。わたした
ちは生と死に直面し、はじめて神の存在を知るとい
ってもよいでしょう。

日曜日の聖体礼儀を編纂した聖金口イオアンはこ
う語っています。

「悲しみの中にも喜びがあるとは言えないだろうか。
…：自分の苦難を嘆く人は多いけれども、パウエル
のように他人の苦難に涙した者はいない。罪びとに
下される刑罰を思つて泣くときのパウエルの悲し
みがいかに大きかったことか。その人たちが救われる
ためならば、自分は天国から閉めだされてもいいと
考え、その人たちが救われなければ、自分が地獄に
落ちるよりもつらいことだと、聖使徒パウエルはつ
ねに祈っているのである」

これは聖人のような立派な人のいうことだから…
…：、一般信徒のわたしたちにあてはめ、同じような
重たいことをいわれても困ります。

素晴らしい人もいます。
それではこう言い直しましょう。

「あなたはこのあと、どう生きますか。亡くなった
人、永眠者が悲しむような人生、生き方をしてはい
ませんか」と。

そうです。亡くなった人、永眠者が悲しみ涙する
ような人生、生き方をしてはいけないと思うのです。

永眠者が救われ、生きて祈っているわたしたちも
神の救いの船に乗りこめるような生き方、信仰生活
を送りたいと思いませんか。

埋葬式やパニヒダに参加する人が悲しみに満ちた
優しい気持ち、寛容な心にあふれるのは、救い主イ
イスや聖使徒、聖人、そして数多くの先輩信徒ら
が、生と死の現場において涙を流し、信じ希望し愛
する大切さを祈ったからです。

生と死の現場に立ち会った人は、亡くなった人の
別の側面を知るだけでなく、生きている自分自身の
新たな生き方、生活を問い直されているのではない
でしょうか。

たとえば日常生活の中で、カーとすぐ怒ってしま
う人はその怒りを遅くしてみませんか。人の欠点や
短所に目がいつてしまい、声を荒げて怒鳴る人は、
怒鳴る前に静かな場所で深呼吸をし祈ってから、そ
の言動が神の前に正しいかどうか見つけてみませ
んか。ついつい人を恨んだり、憎んでしまう人は、心
の中に微笑みを浮かべ、少しだけでもゆるすことが
できますようにと神に祈りましょう。

希望は絶望の後にやってくる。困ったことに、苦
難の向こう岸に希望の灯が見えることがあります。
明るく元気な人に希望があるように思いますが、そ
れは生きる目標というものです。

希望は絶望、生きがい断絶の後に発見し、獲得
することもあるのです。

白い小石

「勝利を得る者には隠されていたマンナを与えよう。
また白い小石を与えよう。その小石にはこれを受け

る者のほかにはだれにもわからぬ、新しい名前が記されている」（黙示録二章）

白い小石とは何でしょうか。

おそらくこれは新たな石板であり、それも一人一人に与えられるその人専用の十誡（小さな石版）です。

その白い小石に、神とその人にしか判別できない「新しい名前」が刻まれていると神が告げています。人は生き直します。復生の人生を歩み始めます。過去の上に踏み立ち、神と共に歩む、神の子としての未来への人生です。

絶望から立ち直ろうとあがいているひとに、神が、白い小石と共に新たな名前、希望を与えます。その小石を握りしめ、わたしたちは新たな一步を刻むのではないのでしょうか。

死ぬよりも辛（つら）い生があるかもしれません。それでもわたしたちは生きねばなりません。

死ぬよりも心の痛む、生活があるかもしれません。それでもわたしたちは日常生活を営まねばなりません。

死ぬよりも残酷な、生きていることによる絶望があるかもしれません。

けれどもわたしたちは、今日も明日も、生きねばなりません。

わたしもあなたも、すでに亡くなられた永眠者と、同じ神の時を共有し、生きることでしょう。それを忘れてはなりません。

永眠者への祈りは、生きている者にはなおさら必要です。

願わくは、祈りを深め、勇気と希望をもって生きられますように。

わたしたちは、永眠、死への涙をのりこえ、生の重み、神の愛の親しさのゆえに悲しみと喜びとをもって祈りましょう。

信仰者にとって生きるということは、神への祈りの中、人生を歩むことです。人は光を信じ、希望を持ち、愛し愛されて生きていきます。

祈りは、神と人、人と人の、霊（たましい）と心をつ結びつけ強めます。

人生、良いときも悪いときもあります。祈るということは、それでも生きて「生命を全うするということ」ではないでしょうか。

わたしたちが柩に入れるもの、永眠者と共に入れるもの、それは新しい名を刻んだ白い小石、復活をにぎりしめ抱きしめている、わたしたち自身です。



教区の活動

奉神礼基礎講座オンライン化

ビデオ講座とZoom実習

二〇一七年から大阪教会を会場に実施されてきた「奉神礼基礎講座」も、コロナ禍で集まるのが難しいために、本年三月の第六回からYouTubeにビデオ『奉神礼基礎講座「実習編」』を配信し、Zoomのリモートミーティングを利用した質問と実習の会を行っています。

これを補足する形で、昨年八月からマリア松島姉による『正教聖歌の伝統』が配信されており、「奉神礼基礎講座」が実践的なワザに重点をおくのに対し、聖歌の歴史的背景や正教の考え方を解説するシリーズ「正教聖歌の伝統」を配信しています。今配信されているビデオ講座は下記の通りです。

奉神礼基礎講座

第六回 棒読みのすすめ―歌えなければ読めばいい

第七回 八調入門―パスハのイルモスを簡単に、「神の使い」

第八回 八調入門―イルモス一調 「生神女就寝祭」

（過去の奉神礼基礎講座の録画（第四回と第五回）も見られます。）

正教聖歌の伝統

第一回 昔ってどれくらい昔？

第二回 使徒たちの時代

第三回 時の祈り ……時の成聖、「聖にして福たる」

第四回 「大詠頌―教義を歌う、聖書を歌う」西方の「グロリア」と比較

番外編 大斎―アンドレイの大カノン

第五回 正教の音楽作り、ことばを歌う二、八調の仕組み

(製作準備の関係で番号が順不同となっています。公開番組について、詳しくは西日本主教教区のホームページをご覧ください。)

<http://www.orthodox-jp.com/westjapan/>

Zoom による質問と実習の会は毎月第二土曜日の一五時から予定しています。どなたでも参加できます。ご希望の方は教区または大阪教会まで email でご連絡ください。事前に招待メールと資料を送ります。

(松島記)

豊橋正教会 聖堂修復工事

検査工事はじまる

国の重要文化財に指定されている豊橋聖使徒福音者マツフェイ聖堂(愛知県豊橋市)の修復工事が始まった。二一年初年度は、検査工事。聖堂外周に足場が組まれ、防護ネット、大屋根(天蓋)を設置、工事用テントにすっぽり覆われている。すでに聖堂内部にも足場が組まれ、聖所には祈祷するスペースのみが確保されている。

視認されている工事箇所、聖堂外周・屋根・軒下・内壁などのほか、今回は、内部調査用の内視スコップでは確認困難な聖堂内部が対象。たとえば天井裏、壁の内側、床下、基礎部分などである。

過去二度にわたる大地震はじめ台風、暴風などを経験してきた豊橋聖堂は、おおむね堅牢であり、基礎部分などに大きなゆがみなどの支障のないことが実証された。ひと安心である。



課題としては、聖堂紹介リーフレット作成、聖像(イコン)修理、安全性を確保しての電気配線、玄関・啓蒙所の照明設置、二年後の聖堂修復成聖式と記念行事開催、それらに伴う、より多くの信徒の協力と参加促進などがあげられる。

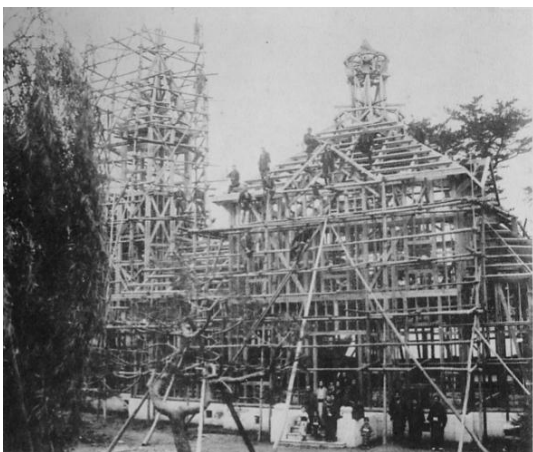
祈祷、集会について

日常の活動は、満田稔執事長を中心に執事の皆様、婦人会の皆様が、協議しつつ活動を行っている。いつ訪れてもきれいに整頓、清掃が行き届いている。

牧会・奉神礼等については、グリゴイ伊藤慶郎神父(名古屋)と京都の及川神父が、豊橋の皆様と共に、話し合いながら実践している。パニヒダ、永眠者とそのご家族への対応なども、ふたりの司祭が協議し、懇切な対応をめざしている。豊橋の皆様のご理解、ご協力で深く感謝します。いっしょに尽力してまいります。

(及川記)

建設中の豊橋教会



コロナ禍での復活祭

豊橋教会

五月九日(日)復活大祭 聖体礼儀。 好天ゆえ十字行をおこない南のゲート前で祈祷、復活の讃歌を歌いながら入堂、聖所が足場とシートにさえぎられていたが、狭いながらも心をこめ祈った。婦人会の皆様が染めた赤卵が皆に贈られた。参拝者二五人。



名古屋・半田教会

名古屋教会では今年はコロナ感染対策のために、夜間の祈祷を断念し、日曜日午前中から聖体礼儀のみを行いました。参拝者は例年の半分ほどの八〇名程度でした。とはいえ昨年は緊急事態宣言のもと祈

祷は非公開でしたので、今年は祈祷ができたことだけでも感謝しなければなりません。

半田教会では五月九日に復活大祭をお祝いしました。こちらも夜半課、十字行、早課を省略し、聖体礼儀のみを行いました。恒例の祝賀会も中止で、祈祷後すぐの解散となりました。



京都教会

コロナ禍であり、夜中の参拝は自力で往復できる方のみとし、昼間との分散をした。五月二日(日)深夜〇時〜十字行、夜中の為ご近所に配慮して堂内を廻り、早課・大祭聖体礼儀、福音は五か国語、ソロモン川島伝教者のリードで心を一つに聖歌を歌った。参拝者四三人。赤玉子、クリーチがきれいに飾られた。

同日お昼一二時、雨の降ったりやんだりの天候のため、十字行を中止。堂内を廻ってから大祭主日晩課。キリル佐藤道雄先生のもと綺麗に聖歌が歌われた。参拝者三四人。



大阪教会

四月二五日に発出された緊急事態宣言発出を受けて、奉神礼はすべて非公開とし、復活祭は五月一日（土）夜から二日深夜にかけて、神品・堂役者、奉神礼オンライン中継スタッフのみの七名で夜半課、十字行、早課（短縮して）、聖体礼儀と続けて祈りました。ホームページで非公開を知らせましたが、それでも不特定多数の人々が殺到することを危惧し門扉閉鎖という厳しい対応を致しました。一方オンライン中継の視聴回数は約千回にのぼっており、どれだけ多くの信徒が復活祭の喜びを共に聖堂で分かち合いたかったかを示しています。来年こそは、盛大に聖堂でお祝いできるよう、一日も早いコロナ収束を祈るばかりです。

また、広島での復活祭集会も昨年に引き続き中止を余儀なくされました。



神戸教会

神戸ハリストス正教会は新型コロナウイルスの影響に伴い今年も日曜日（二日）朝一〇時から十字行

（境内一周）・復活祭のお祝いを致しました。感染拡大防止の為、祝賀会も行われませんでした。復活祭がお祝いできたことはまことに感謝です。一日も早いコロナ終息をお祈りします。



徳島教会

五月二日、通常であれば夜中から始まる復活大祭も、罪生・小川の体調を考え、今年も午前一〇時半



から聖体礼儀を開始。新型コロナウイルスの影響もあり、少人数の復活大祭かと思われましたが、ロシア人・ウクライナ人など外国人信徒の訪問もあり、

多くの参拝者を迎えてのお祈りができました。

新型コロナウイルスの流行病が早く収まることを願い、来年も信徒の皆様と祝いの祝い、祭りの祭りである主の復活大祭を迎えたく思います。

九州管区

今年の復活大祭当日の五月二日は福岡伝道所で奉事予定でしたが、コロナ感染拡大により福岡県全域に「不要不急の外出自粛要請」が発出されたため翌月に延期。また熊本県では、感染者が熊本市内に集中していたため、熊本教会での奉事日程は変更しないものの、参拝者を所属信徒とその家族に限定して執り行うこととしました。

五月二日は人吉教会で急遽復活祭の奉事を執り行いました。急な変更であったにもかかわらず、二人もの参拝者があり、盛大に主の復活を祝うことができました。

熊本教会は五月九日（参拝六人）、鹿児島教会は二三日（参拝一人）、福岡伝道所は六月六日（参拝七人）に、それぞれ復活祭を行いました。参拝者数としては少し寂しいものがありますが、コロナ感染拡大の第四波だったことを勘案すれば、祈禱を執行できただけ幸いだったと思っています。

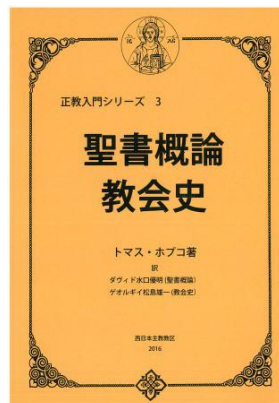
本の紹介

おうち時間、巣ごもり時間がふえているなか、西日本主教区の刊行した本を読みませんか？

〈翻訳 出版物〉

○正教入門シリーズ

- 1 トマス・ホプコ、ダヴィド水口優明訳 『正教要理』
- 2 トマス・ホプコ、イオアン小野貞治訳 『奉神礼』
- 3 トマス・ホプコ、ゲオルギイ松島雄一訳『聖書概論 教会史』



○カリストス・ウェア、ゲオルギイ松島雄一訳

『私たちはどのように救われるのか 大斎 正教徒は聖書をどう読むべきか』

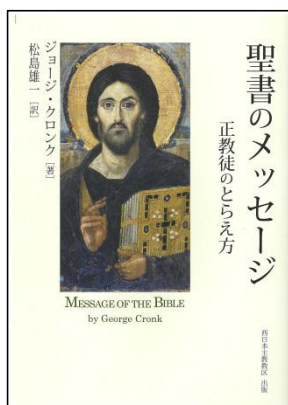
○ジョージ・クロンク、ゲオルギイ松島雄一訳

『聖書のメッセージ 正教徒のとらえ方』

○ヨハン・V・ガードナー、マリア松島純子訳 『ロシア正教会の聖歌 正教会奉神礼・聖歌入門』

本書には、ウラディミル・モロザン『祈りの音楽』収録

* 上記の本いずれも1冊 1,300円(送料別)

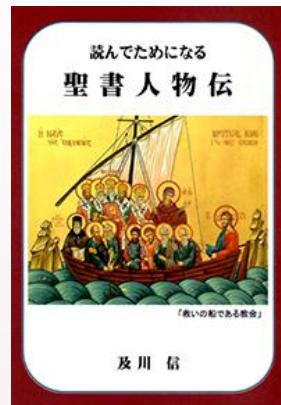


✿ 〈正教会をもっと知りたい人のために〉✿

○パウエル及川信『神父になったサムライ 日本正教会の歴史論考』1,000円

○パウエル及川信『聖書人物伝 読んでためになる』1,500円

○日本正教会の歴史『日本の光照者 亜使徒 聖ニコライの歩み』カラー刷 300円



☆東京大主教区 東日本主教区の本も読みましょう

○修道士テオクリトス・ディオニシアトス、イオアン長屋房夫訳
『天と地の間 天国への道標』

○東日本主教教区宗務局『正教会用語集』

○堀内理恵訳『師父ドロフェイに霊に有益な教訓』 1,000円(送料別)

